

【参議院災害対策委員会】足立敏之議員「東日本大震災の記憶伝承で支援を」

東日本大震災から11年目を迎える中、11日に開かれた参議院災害対策特別委員会で足立敏之議員が質問に立ち、東日本大震災の記憶の伝承が図られるよう「3・11伝承ロード」など、国としても地域に根差した取り組みにより支えていくことが大事と主張した。足立議員は「震災の記憶が少しずつ薄らいでいるのは事実だと思う。残念ながら首都圏でこうした取り組みを知っている人は少ない。できるだけ多くの方々が訪れ、経験していただくことが大切だ」と指摘。内閣府の二之湯智防災担当大臣は「多くの犠牲者を出した震災の記憶を風化させることなく語り継ぎ、防災意識を高めていくことは非常に重要なこと。今後とも地域に根差した震災の記憶の伝承の取り組みを支えるよう、国と地元が連携して国民の防災意識の向上を図ってまいりたい」と答弁した。



「伝承ロードへの支援を」と話す足立議員

足立議員は豪雪問題についても質問し、除雪工事の発注に当たり、地域の建設業が適正な利潤を確保できるようにすることが重要と強調した。国土交通省の廣瀬昌由・大臣官房審議官は、施工実態に即した適切な予定価格の設定や設計変更の実施が重要との認識を示した上で、特殊な除雪機械は国交省が保有し受注者に無償で貸与することや、待機費用の標準歩掛の改善、少雪時でも冬期に受注者が除雪機械を保持している間は出勤がなくても固定的経費を積算で計上する試行を昨年12月から開始したことを説明。今後も「引き続き除雪作業の実態把握に努め、適切に取り組む」と答弁した。足立議員は業界から「除雪トラックのオペレーターを一般運転手から大型特殊免許を保有する運転手に変更してほしい」「土日・休日の作業は休日手当等の割り増しの対象にしてほしい」などの要望が出ていることを紹介し、さらなる検討を求めた。